



# 献血で救える命がある

## 16歳から始めるボランティア

病気やけがの治療で輸血が必要な人の血液を確保するために欠かせないのが「献血」です。皆さんのご協力をお願いします。

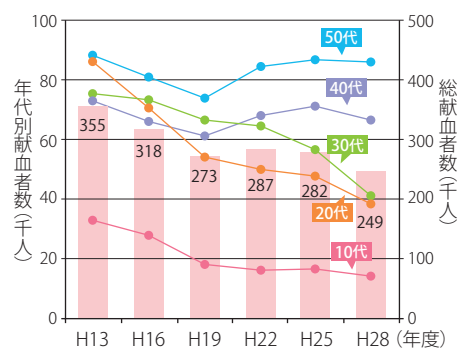
**問い合わせ** 健康推進課（東8南13、保健福祉センター内、☎25・9720）、北海道赤十字血液センター帯広出張所（東7南9、☎25・0101）

### 必要な人に届けられなくなる？

治療などで輸血が必要となる人の約85パーセントは50歳以上で、高齢化が進むにつれて、輸血が必要となる人の増加が見込まれます。

一方、献血者数は減少傾向にあり、中でも20代、さらに30代の献血者が大きく減少しています。

図 北海道の献血者数の推移（年代別と総献血者数）



若年層の献血離れが続くと、輸血が必要な人に血液が届けられなくなる恐れがあり、この状態が続くと2025年には、北海道内で献血者約5万人分の血液が不足する可能性があります。

### 献血者は冬期間に減少する

冬期間は風邪で体調の優れない人や薬を服用している人、悪天候

の影響などで外出を控える人が増えるため、献血者が減少し、輸血用の血液が不足しがちです。

### 献血は16歳からできる

献血は、16歳から69歳までの一定体重以上の健康な人であれば誰でもできます（表）。なお、体調の優れない人や服用している薬の種類によっては、制限される場合があります。

表 採血基準

種類	全血献血	
	200ミリリットル	400ミリリットル
項目	200	400
	200	400
年齢	16～69歳*	17～69歳*
	16～69歳*	18～69歳*
体重	45キロ以上	50キロ以上
	40キロ以上	50キロ以上

\*65歳以上は、60～64歳の間に献血経験がある人



### 40分で助かる命がある

献血にかかる時間は、受け付けから採血後の休憩までで約40分（400ミリリットル全血献血の場合）。実際に採血をしている時間は、平均で10～15分程です。輸血を必要としている人は1日平均約3000人で、それを賄うには1日約1万3000人の献血が必要

要です。血液は人工的に造れませんが、血液から造る血液製剤の有効期間は短いものでは4日間しかなく、長期間保存ができないため、多くの皆さんの継続的な協力が必要です。

### 献血に行こう

#### 平日の献血

移動献血車が十勝管内を巡回します。日程は北海道赤十字血液センターのホームページで確認するか、血液センターまで問い合わせください。



北海道血液センター 検索

### テーマ 自らの「生きる姿勢」を短歌に託した意欲的で力強い作品

#### 応募条件

短歌50首（未発表の作品）  
応募作品は1人1篇。応募作品の返却や訂正はできません。入選作品の著作権は主催者に帰属。

#### 応募形式

400字詰め原稿用紙（B4）にタイトルをつけ、原本1部とコピー3部を提出。  
原稿は黒インク、黒ボールペンを使用。パソコン使用可。  
※新旧かなづかいを明記。  
※原稿用紙には氏名などを記載しないでください。

#### 応募方法

応募作品と、郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、職業（学校）、電話番号、所属結社（所属している場合）を記載した別葉を添付し、郵送・運送、または直接中城ふみ子賞実行委員会へ。

#### 受付期間

4月1日（日）～30日（振）（当日消印有効）

#### 出詠料

2000円

# 「生きる姿勢」を短歌に託して

## 第8回中城ふみ子賞（短歌賞）作品募集

**問い合わせ** 中城ふみ子賞実行委員会（〒080・0012西2条南14丁目3、図書館内、☎22・4700）

帯広出身の歌人、中城ふみ子の功績をたたえて創設された「中城ふみ子賞」の作品を募集します。多くの応募をお待ちしています。

作品に定額小為替を同封して郵送または口座振り込み（切手不可）  
□座番号 帯広信用金庫 本店 普通1379946  
□座名義 ナカジヨウフミコシヨウジツコウイイカイ  
選者 桑原正紀氏（歌人）、田中綾氏（歌人）、時田則雄氏（歌人）

中城ふみ子賞1人 賞状と副賞  
入選者の作品は雑誌「短歌研究」8月号に発表

### 生と死を詠んだ 中城ふみ子

大正11年に帯広で生まれた中城ふみ子は、昭和27年乳がんを診断され手術を受ける。

昭和29年、短歌研究社主催の第1回新人50首募集に応募し、第1位に入選。入選作「乳房喪失」は歌壇内外に大きな反響を呼んだが、同年8月3日、31歳で逝去。  
死の直前に歌集「乳房喪失」が、死後第2歌集「花の原型」が刊行。  
生と死を詠んだ彼女の歌は、短歌の世界に鮮烈な光を放った。

